

SYLLABUS(後期)

授業科目	ビジネスマナー I		年次	1 年	前後期	通年	単位	4
授業の種類	講義	科目区分	必修					
実務経験内容								
教育目標	マナー及び一般常識について教育し、社会人としてのマナーを習得させる。							
成績評価の方法・基準	成績は100点満点とし、60点以上をもって合格点とする。科日期末試験、平常試験の成績及び出席状況を厳正に審査して、成績を評価し、その評価に基づき単位を付与する。 科目成績評価は絶対評価の4段階であり、優（A：100点～80点）、良（B：79点～70点）、可（69点～60点）、不可（D：60点未満）とする。							
回数	題 目	授 業 内 容						
1	就職活動の流れを知ろう	活動準備(自己分析・企業研究・情報収集)・活動開始(会社説明会・採用試験)進路決定(内定)						
2	スケジュールを考えよう 情報収集して視野を広げよう	求人票の見方・インターネットの活用・Eメールの活用・新聞の利用・就職情報誌や書籍の活用						
3	企業にアプローチ (エントリー)しよう	アプローチの方法・Eメールの書き方・資料送付のお礼状						
4	企業訪問をしよう	電話でのアポイントの取り方・電話の基本マナー・会社訪問時のマナー・OB、OG訪問時のマナー						
5	マナーを知ろう	言葉使い・敬語の使い方						
6	エントリーシートに備えよう	エントリーシートとは・エントリーシートの目的・エントリーシートの書き方 エントリーシートの回答例						
7	履歴書を書こう	履歴書の書き方練習及び添削						
8	自己PRと志望動機を まとめよう	自己PRの書き方・志望動機の書き方						
9	SNSを活用しよう	SNSとは?・就活にも利用できるSNS・facebookを使ってみよう						
10	採用試験に備えよう	会社訪問前のチェック・就職活動グッズ・どんな身だしなみがNG 身だしなみチェックポイント						
11	企業の採用基準を知ろう 面接の種類を知っておこう	就活ノートを作る・企業はあなたのココをみている・ディベートのポイント 面接はこんな流れで進む・面接にはいろいろな形式がある						
12	正しいマナーで面接試験に 臨もう	受付、控室では・入室時のマナー・いすに正しく座るには・退室時のマナー・ お辞儀の仕方・携帯電話のマナー・面接成功のポイント・面接でソンをする行為						
13	入社に備えよう	内定が決まったら・内定が決まらないとき						
14	入社前の心構え	授業の遅刻・無断欠席をしない・職場での基本をみにつけておこう						
15	ビジネスの基礎知識 ストレスコントロール	アポイントメント・名刺交換・来客時の対応・お茶の出し方・ ストレスコントロールを身につける						
1 回配当時間	2 時間	1 コマ						
使用教科書	就職活動 実践!ワークブック 改訂版							

SYLLABUS(後期)

授業科目	一般構造		年次	1 年	前後期	通年	単位	4
授業の種類	講義	科目区分	必修		実務経験のある教員による授業科目			○
実務経験内容	建築士として建築設計事務所を運営し建築業務全般に関する実務経験を有す。							
教育目標	各建築物の基礎工事から仕上げまでを理解させ建築物の設計能力を養う。							
成績評価の方法・基準	成績は100点満点とし、60点以上をもって合格点とする。科目期末試験、平常試験の成績及び出席状況を厳正に審査して、成績を評価し、その評価に基づき単位を付与する。 科目成績評価は絶対評価の4段階であり、優（A：100点～80点）、良（B：79点～70点）、可（69点～60点）、不可（D：60点未満）とする。							
回数	題 目	授 業 内 容						
1	鉄筋コンクリート構造 (I)	構造形式について説明し理解させる。及びその材料と鉄筋とセメント等について説明し理解させる。						
2	鉄筋コンクリート構造 (II)	コンクリートの種類及びコンクリートの二次製品について説明し理解させる。また基礎について（地盤と基礎の形式と基礎の配筋）説明し理解させる。						
3	鉄筋コンクリート構造 (III)	鉄筋コンクリートラーメン構造における構造計画及び梁、柱、床スラブ、壁、階段等、についての配筋のポイントについて説明し理解させる。						
4	鉄筋コンクリート構造 (IV)	鉄筋コンクリート構造における防水の方法と、種類について説明し理解させる。又、地下室についての特殊な防水方法について、説明し理解させる。						
5	鉄筋コンクリート構造 (V)	鉄筋コンクリート構造における仕上げ計画と仕上げ材料（外部、内部、階段周り、開口部）について説明し理解させる。						
6	鉄筋コンクリート構造 (VI)	壁式鉄筋コンクリートとプレキャスト鉄筋コンクリートについて主であるラーメン構造との相違点について説明し理解させる。						
7	鉄骨構造 (I)	構造形式として主であるトラス構造とラーメン構造のそれぞれの長所と、欠点を説明し理解させる。						
8	鉄骨構造 (II)	鋼材の形状と寸法及び鋼材の性質、強度について説明し理解させる。						
9	鉄骨構造 (III)	鋼材の接合方法と接合部設計の、原則及び、高力ボルト接合、溶接接合等の配置について説明し理解させる。						
10	鉄骨構造 (IV)	基礎形状の種類とそれぞれの基礎の長所と欠点について説明し理解させる。						
11	鉄骨構造 (V)	骨組みの構造計画と骨組みの構成、及び部材（梁、柱、すじかい、壁等）について説明し理解させる。						
12	鉄骨構造 (VI)	仕上げ材（外部、内部、開口部、耐火被覆）について軽鋼構造及び、鋼管構造についての概要を説明し、理解させる。						
13	その他の構造	鉄骨鉄筋コンクリート構造と、プレストレストコンクリート構造のそれぞれの概要及び構造用材料について、説明し理解させる。						
14	建築物の防災と保守 (I)	火災及びその他の災害についての対策方法、及び主要構造部と仕上げ部の保守点検について説明し、理解させる。						
15	建築物の防災と保守 (II)	火災及びその他の災害についての対策方法、及び主要構造部と仕上げ部の保守点検について説明し、理解させる。						
1 回配当時間	2 時間	1 コマ						
使用教科書	図説やさしい建築一般構造							

SYLLABUS(後期)

授業科目	建築計画		年次	1年	前後期	通年	単位	4
授業の種類	講義	科目区分	必修		実務経験のある教員による授業科目			○
実務経験内容	建築士として建築設計監理業務に関する実務経験を有す。							
教育目標	建築物の用途に応じた設計条件や法令との関係などを理解し、適切で合理的な設計のあり方について習得させる。							
成績評価の方法・基準	成績は100点満点とし、60点以上をもって合格点とする。科日期末試験、平常試験の成績及び出席状況を厳正に審査して、成績を評価し、その評価に基づき単位を付与する。 科目成績評価は絶対評価の4段階であり、優（A：100点～80点）、良（B：79点～70点）、可（69点～60点）、不可（D：60点未満）とする。							
回数	題 目		授 業 内 容					
1	劇場の計画		一般的な劇場における必要諸室とそのゾーニングや機能的なつながり方、舞台形式の種類と概要、劇場に関する基本用語、客席を中心とした諸部分の寸法計画について説明する。					
2	事務所の計画		レンタル比・コアタイプなど、事務所建築に関係の深い重要概念、机のレイアウト計画および事務所に關わる諸計画、数量算定を含むエレベーターの計画について説明する。					
3	ホテルの計画		一般的なシティホテルにおける必要諸室とそのゾーニングや機能的なつながり方、ホテルの種類とその特徴、客席の種類とその適正面積について説明する。					
4	病院・診療所の計画		病院の部門構成とその機能的つながり、各部門ごとの計画上の要点、診療所についての計画上の要点について説明する。					
5	商業建築の計画（1）		飲食店における厨房面積、百貨店における売場面積等の面積配分、飲食店の客席やカウンターなどについて説明する。					
6	商業建築の計画（2）		物品販売店の店内通路幅や陳列棚などの寸法計画、コンビニエンスストアや大規模量販店などの計画について説明する。					
7	各種建築物の計画		高齢者施設などの概要、駐車・駐輪施設についての寸法計画、スポーツ関連施設について各種競技のコートの大きさや屋内競技場の天井高などの寸法計画について説明する。					
8	高齢者・障害者に配慮した建築計画（1）		ノーマライゼーション・バリアフリー・ユニバーサルデザインなどの基本概念、関係法令の整備の概要について説明する。					
9	高齢者・障害者に配慮した建築計画（2）		階段・トイレ・浴室・駐車スペースなど、建築物の部位別のバリアフリー計画の要点を説明し、その後演習課題を行う。					
10	地球環境に配慮した建築計画（1）		種々の環境問題の概要とそれに対する取り組みの歴史の概観、解決策として近年注目されている持続可能性という概念について説明する。					
11	地球環境に配慮した建築計画（2）		地球環境あるいは持続可能性に配慮した住宅としての資源循環型住宅、建築の手法としてコンバージョン・リノベーションについて説明する。					
12	建築計画の今後		都市と密接な関わりを持つ建築物の計画、景観形成に配慮した建築のあり方、防災や減災の視点からの建築計画について説明する。					
13	演習問題（1）		二級建築士の過去問題の解説を行う。その後、理解力の確認及び理解力を深めるために演習問題を行う。					
14	演習問題（2）		二級建築士の過去問題の解説を行う。その後、理解力の確認及び理解力を深めるために演習問題を行う。					
15	総合演習問題		1～14回までに關する総合能力の達成度の確認及び補足のための演習問題を行う。					
1回配当時間	2時間		1コマ					
使用教科書	図説やさしい建築計画 改訂版							

SYLLABUS(後期)

授業科目	構造力学 I	年次	1 年	前後期	通年	単位	4
授業の種類	講義	科目区分	必修	実務経験のある教員による授業科目			○
実務経験内容	建築士として建築設計事務所を運営し建築業務全般に関する実務経験を有す。						
教育目標	建築基準法及び関連規則について、法の基本理念を理解するとともに各規定について具体的に習得させる。						
成績評価の方法・基準	成績は100点満点とし、60点以上をもって合格点とする。科目期末試験、平常試験の成績及び出席状況を厳正に審査して、成績を評価し、その評価に基づき単位を付与する。 科目成績評価は絶対評価の4段階であり、優（A：100点～80点）、良（B：79点～70点）、可（69点～60点）、不可（D：60点未満）とする。						
回数	題 目	授 業 内 容					
1	前期の復習（I）	前期、説明した主たる所である反力と応力について練習問題を用いて復習し再度、理解を深める。					
2	前期の復習（II）	前期、説明した主たる所である反力と応力について練習問題を用いて復習し再度、理解を深める。					
3	静定トラス（I）	トラス部材の応力とその計算の方法について説明し演習問題を用いて理解を深める。					
4	静定トラス（II）	節点法とはどのようなものなのか説明し又その計算の方法について説明し演習問題を用いて理解を深める。					
5	静定トラス（III）	切断法とはどのようなものなのか説明し又その計算の方法について説明し演習問題を用いて理解を深める。					
6	構造材料の力学的性質（I）	応力度と変形の性質について説明し又その計算の方法について説明し演習問題を用いて理解度を深める。					
7	構造材料の力学的性質（II）	弾性体の性質と材料の変形と応力について説明し又その計算の方法について説明し演習問題を用いて理解を深める。					
8	構造材料の力学的性質（III）	許容応力度について説明し又背の計算の方法について説明し演習問題を、用いて理解を深める。					
9	断面の性質（I）	断面一次モーメントについて説明し、それにより図心を求める計算を演習問題を用いて理解を深める。					
10	断面の性質（II）	断面二次モーメントについて説明し、部材の変形の大きさを演習問題を用いて理解を深める。					
11	断面の性質（III）	断面係数について説明し、部材の変形の大きさを演習問題を用いて理解を深める。					
12	断面の性質（IV）	断面二次半径について説明し、部材の座屈のしにくさを演習問題を用いて理解を深める。					
13	部材の設計（I）	圧縮材についての構造計算及び設計法について説明し演習問題を用いて理解を深める。					
14	部材の設計（II）	引張材についての構造計算及び設計法について説明し演習問題を用いて理解を深める。					
15	部材の設計（III）	引張材についての構造計算及び設計法について説明し演習問題を用いて理解を深める。					
1 回配当時間	2 時間	1 コマ					
使用教科書	図説やさしい構造力学 改訂版、基礎から学ぶ建築構造設計 基本式の理解と活用、ビジュアルハンドブック 必携建築資料 改訂版						

SYLLABUS(後期)

授業科目	建築法規 I	年次	1 年	前後期	通年	単位	4
授業の種類	講義	科目区分	必修	実務経験のある教員による授業科目			○
実務経験内容	建築士として建築設計監理業務に関する実務経験を有す。						
教育目標	建築基準法及び関連規則について、法の基本理念を理解し、各規定について具体的に習得させる。						
成績評価の方法・基準	成績は100点満点とし、60点以上をもって合格点とする。科日期末試験、平常試験の成績及び出席状況を厳正に審査して、成績を評価し、その評価に基づき単位を付与する。 科目成績評価は絶対評価の4段階であり、優（A：100点～80点）、良（B：79点～70点）、可（69点～60点）、不可（D：60点未満）とする。						
回数	題 目	授 業 内 容					
1	用語の定義・確認申請	用語の定義、確認申請についてのポイント解説及び演習テスト、解説					
2	手続き	手続きについてのポイント解説及び演習テスト、解説					
3	一般構造（1）／建築基準法	一般構造についてのポイント解説及び演習テスト、解説					
4	一般構造（2）／建築基準法	一般構造についてのポイント解説及び演習テスト、解説					
5	高さ制限	高さ制限についてのポイント解説及び演習テスト、解説					
6	建蔽率	建蔽率についてのポイント解説及び演習テスト、解説					
7	容積率	容積率についてのポイント解説及び演習テスト、解説					
8	居室の採光	居室の採光についてのポイント解説及び演習テスト、解説					
9	道路	道路についてのポイント解説及び演習テスト、解説					
10	用途地域による建築制限	用途地域に建築制限についてのポイント解説及び演習テスト、解説					
11	木造の構造強度・柱の小径・構造耐力	木造の構造についてのポイント解説及び演習テスト、解説					
12	構造強度	構造強度についてのポイント解説及び演習テスト、解説					
13	建築士法・建築士事務所	建築士法・建築士事務所についてのポイント解説及び演習テスト、解説					
14	その他法令	その他法令についてのポイント解説及び演習テスト、解説					
15	試験						
1回配当時間	2時間	1コマ					
使用教科書	図説やさしい建築法規、建築関係法令集 法令編、 ビジュアルハンドブック必携建築資料 改訂版						

SYLLABUS(後期)

授業科目	建築施工 I		年次	1 年	前後期	通年	単位	4
授業の種類	講義	科目区分	必修		実務経験のある教員による授業科目			○
実務経験内容	建築士として建築設計事務所を運営し建築業務全般に関する実務経験を有す。							
教育目標	設計図に基づき、建築物を完成させる各過程を理解し、各種手続き、各種の工事について理解させる。							
成績評価の方法・基準	成績は100点満点とし、60点以上をもって合格点とする。科目期末試験、平常試験の成績及び出席状況を厳正に審査して、成績を評価し、その評価に基づき単位を付与する。 科目成績評価は絶対評価の4段階であり、優（A：100点～80点）、良（B：79点～70点）、可（69点～60点）、不可（D：60点未満）とする。							
回数	題 目	授 業 内 容						
1	鉄筋工事について（Ⅰ）	鉄筋コンクリート造の工事の流れについて図を用いて説明し理解させる。						
2	鉄筋工事について（Ⅱ）	鉄筋コンクリート造建築物の構造体の耐久性について説明し理解させる。						
3	鉄筋工事について（Ⅲ）	材料及び加工、組み立てについて説明し理解させる。						
4	鉄筋工事について（Ⅳ）	鉄筋の被り厚さ及び定着と継ぎ手について説明し理解させる。						
5	型枠工事について（Ⅰ）	材料及び型枠に作用する荷重について説明し理解させる。						
6	型枠工事について（Ⅱ）	型枠の組み立て及び型枠の解体について説明し理解させる。						
7	型枠工事について（Ⅲ）	型枠の組み立て及び型枠の解体について説明し理解させる。						
8	型枠工事について（Ⅳ）	型枠の組み立て及び型枠の解体について説明し理解させる。						
9	コンクリート工事について（Ⅰ）	材料（セメント、細骨材、粗骨材）について説明し理解させる。						
10	コンクリート工事について（Ⅱ）	コンクリートの種類（普通コンクリート、軽量コンクリート、寒中コンクリート、暑中コンクリート、マスコンクリート）について説明し理解させる。						
11	コンクリート工事について（Ⅲ）	コンクリートの種類（普通コンクリート、軽量コンクリート、寒中コンクリート、暑中コンクリート、マスコンクリート）について説明し理解させる。						
12	コンクリート工事について（Ⅳ）	コンクリートの調合について説明し理解させる。						
13	コンクリート工事について（Ⅴ）	レディミクストコンクリートについて説明し理解させる。						
14	コンクリート工事について（Ⅵ）	コンクリートの運搬について説明し理解させる。						
15	コンクリート工事について（Ⅶ）	コンクリートの打ち込み及びコンクリートの養生について説明し理解させる。						
1 回配当時間	2 時間	1 コマ						
使用教科書	ビジュアルハンドブック 必携建築資料 改訂版、建築施工テキスト 改訂版							

SYLLABUS(後期)

授業科目	建築基礎		年次	1年	前後期	通年	単位	4
授業の種類	講義	科目区分	必修		実務経験のある教員による授業科目			○
実務経験内容	建築士として建築設計事務所を運営し建築業務全般に関する実務経験を有す。							
教育目標	建築に必要な数学を理解させ、構造設計の計算能力を高める。また、CADの基本的事項について習得させる。							
成績評価の方法・基準	成績は100点満点とし、60点以上をもって合格点とする。科目期末試験、平常試験の成績及び出席状況を厳正に審査して、成績を評価し、その評価に基づき単位を付与する。 科目成績評価は絶対評価の4段階であり、優（A：100点～80点）、良（B：79点～70点）、可（69点～60点）、不可（D：60点未満）とする。							
回数	題 目	授 業 内 容						
1	エネルギーと単位	エネルギーの種類と関連する国際単位系及び大気圧と密度と比重について説明し理解を深める。						
2	物質の三態	三態変化について（融解と凝固、蒸発と凝縮、及び昇華）説明し理解を深める。						
3	物理変化	膨張、融解、潮解、風解及び体積と圧力（ボイルの法則）と体積と温度の関係（シャルルの法則）について説明し理解を深める。						
4	湿度及び熱量と熱の移動	湿度の種類（相対湿度、実効湿度、絶対湿度）及び温度の種類（摂氏温度、絶対温度）熱量、熱容量熱量について説明し理解を深める。						
5	熱の伝わり方	伝導、対流、放射について説明し理解を深める。						
6	熱膨張	線膨張と体膨張及び水の特性について説明し理解を深める。						
7	不等式と比例式	不等式の性質及び比と比の値、正比と逆比、比例式について説明し理解を深める。						
8	三角関数（Ⅰ）	特定直角三角形の辺の比と特定角の三角関数について説明し理解を深める。						
9	三角関数（Ⅱ）	三角関数の適応法と三角形の面積及び三角関数解放例について説明し理解を深める。						
10	一元二次方程式（Ⅰ）	解法の種類（平方根による解法、因数分解による解法）について説明し理解を深める。						
11	一元二次方程式（Ⅱ）	解法の種類（解の公式による解法）及び二次方程式の解法順序について説明し理解を深める。						
12	行列式（Ⅰ）	行列式の役割と連立二元一次方程式への行列式の適用について説明し理解を深める。						
13	行列式（Ⅱ）	連立三元一次方程式への行列式の適用について説明し理解を深める。						
14	対数（Ⅰ）	対数の底及び対数と真数との関係について説明し理解を深める。						
15	対数（Ⅱ）	対数式の変形法、常用対数、指数と仮数、対数の応用について説明し理解を深める。						
1回配当時間	2時間	1コマ						
使用教科書	ビジュアルハンドブック 必携建築資料 改訂版、図説やさしい建築数学							

SYLLABUS(後期)

授業科目	建築史		年次	1年	前後期	通年	単位	4
授業の種類	講義	科目区分	必修		実務経験のある教員による授業科目			○
実務経験内容	建築士及びインテリアコーディネーターとして内装に関する実務経験を有す。							
教育目標	日本と西洋の建築の変遷と相違点を認識し、各時代の遺構から建築様式、構造、構法を学び現代建築への発達過程を理解させる。							
成績評価の方法・基準	成績は100点満点とし、60点以上をもって合格点とする。科目期末試験、平常試験の成績及び出席状況を厳正に審査して、成績を評価し、その評価に基づき単位を付与する。 科目成績評価は絶対評価の4段階であり、優（A：100点～80点）、良（B：79点～70点）、可（69点～60点）、不可（D：60点未満）とする。							
回数	題 目		授 業 内 容					
1	日本建築史・中世（1）		大仏様の建築、禅宗様の建築、新和様と折衷様について説明する。					
2	日本建築史・中世（2）		中世の神社、座敷の成立と武家文化、中世の民家について説明し、その後演習問題を行う。					
3	日本建築史・近世（1）		城郭建築、書院造、茶室について説明する。					
4	日本建築史・近世（2）		数寄屋風書院、近世の寺院、近世の神社について説明する。					
5	日本建築史・近世（3）		近世の民家、学校・大店・劇場・遊郭について説明し、その後演習問題を行う。					
6	近代建築史・西洋（1）		産業革命以後の建築、アーツ・アンド・クラフツ運動、アール・ヌーヴォーについて説明する。					
7	近代建築史・西洋（2）		ウィーン・ゼツェッション、ドイツ表現主義、ロシア構成主義、デ・ステイルについて説明する。					
8	近代建築史・西洋（3）		アール・デコ、フランク・ロイド・ライト、ドイツ工作連盟、バウハウスについて説明する。					
9	近代建築史・西洋（4）		ル・コルビュジェ、ミース・ファン・デル・ローエについて説明し、その後演習問題を行う。					
10	近代建築史・日本（1）		洋風住宅、居留地の開発、居留地・洋風の街並み、西洋建築技術の輸入、伝統技術の西洋化と擬洋風建築について説明する。					
11	近代建築史・日本（2）		西洋建築の理解と習熟、耐震理論と新構法の展開について説明する。					
12	近代建築史・日本（3）		日本の表現主義、震災の前後と帝冠様式について説明し、その後演習問題を行う。					
13	近代建築史・戦後（1）		戦後の建築潮流、戦後の日本建築について説明する。					
14	近代建築史・戦後（2）		ポストモダンの建築について説明し、その後演習問題を行う。					
15	総合演習問題		1～14回までにに関する総合能力の達成度の確認及び補足のための演習問題を行う。					
1回配当時間	2時間		1コマ					
使用教科書	カラー版図説 建築の歴史 西洋・日本・近代							

SYLLABUS(後期)

授業科目	インテリアデザイン	年次	1年	前後期	通年	単位	4
授業の種類	講義	科目区分	必修	実務経験のある教員による授業科目			○
実務経験内容	建築士及びインテリアコーディネーターとして内装に関する実務経験を有す。						
教育目標	インテリアコーディネーター試験の基礎知識「インテリア商品と販売」「インテリア計画と技術」を学び資格取得の資とする。						
成績評価の方法・基準	成績は100点満点とし、60点以上をもって合格点とする。科日期末試験、平常試験の成績及び出席状況を厳正に審査して、成績を評価し、その評価に基づき単位を付与する。 科目成績評価は絶対評価の4段階であり、優（A：100点～80点）、良（B：79点～70点）、可（69点～60点）、不可（D：60点未満）とする。						
回数	題 目	授 業 内 容					
1	建築構造について	木造・RC造・S造 それぞれの特徴の学習と基礎知識の理解。					
2	平面計画 1	人間工学についての基礎学習と 寸法計画について学習。					
3	平面計画 2	住宅の種類と形式、ゾーニングの工夫について。					
4	平面計画 3	L・D・Kほか、各部屋の計画と寸法の検討。					
5	建築とインテリアの歴史： 日本	古代～現代につながる建築様式の流れと各時代での特徴。					
6	建築とインテリアの歴史： 西洋	ギリシア・ローマ時代～近世までの様式の変遷について。					
7	建築とインテリアの歴史： 西洋	近代～現代に至る建築とインテリアの様式について。					
8	復習 演習	上記までの学習内容の振り返りと練習問題。					
9	環 境	空調設備・冷暖房設備のポイントを学習する。					
10	設 備	キッチン・サニタリーについての基礎知識の学習。					
11	環境・設備 復習	環境・設備についての復習と練習問題。					
12	建築表現	インテリアプラン検討時に必要となる図面表記の基礎学習と演習。					
13	インテリアアクセサリ	室内装飾に不可欠な様々なインテリアアクセサリについての基本を学習する。					
14	法規	インテリアプラン検討時に必要となる建築法規及び消費者関連法規の学習。					
15	総復習	各ジャンルの演習・練習問題を通して、多角的視点をもてるように努力する。					
1回配当時間	2時間	1コマ					
使用教科書	インテリアコーディネーター 合格テキスト 改訂版、 インテリアコーディネーター1次試験過去問題徹底研究 上巻 下巻						

SYLLABUS(後期)

授業科目	建築設計製図 I	年次	1 年	前後期	通年	単位	8
授業の種類	実習	科目区分	必修	実務経験のある教員による授業科目			○
実務経験内容	建築士として個人住宅、公共建築などの設計監理業務に関する実務経験を有す。						
教育目標	建築技術者として必要な、建築物の用途・構造に応じた計画の立案力、設計図面の作成要領等を習熟させ、テーマに沿った自由設計を完成させる。						
成績評価の方法・基準	成績は100点満点とし、60点以上をもって合格点とする。科日期末試験、平常試験の成績及び出席状況を厳正に審査して、成績を評価し、その評価に基づき単位を付与する。 科目成績評価は絶対評価の4段階であり、優（A：100点～80点）、良（B：79点～70点）、可（69点～60点）、不可（D：60点未満）とする。						
回数	題 目	授 業 内 容					
1	木造2階建(保育所) 1	読み取り演習：課題文マーカーの仕方・建物のヴォリューム算定・エスキース前の準備					
2	木造2階建(保育所) 2	エスキース演習：ゾーニングの仕方・内部条件と外部条件の整理の仕方・エスキース・計画の要点の書き方					
3	木造2階建(保育所) 3	作図演習：配置図兼平面図・2階梁伏図及び小屋伏図→線種の使い分け・作図手順・時間管理					
4	木造2階建(保育所) 4	作図演習：立面図・矩計図・面積表・仕上げ表・計画の要点→線種の使い分け・作図手順					
5	RC造2階建(地域公民館) 1	読み取り演習：課題文マーカーの仕方・建物のヴォリューム算定・エスキース前の準備					
6	RC造2階建(地域公民館) 2	エスキース演習：ゾーニングの仕方・内部条件と外部条件の整理の仕方・エスキース・計画の要点の書き方					
7	RC造2階建(地域公民館) 3	作図演習：立面図・矩計図・面積表・仕上げ表・計画の要点→線種の使い分け・作図手順					
8	RC造2階建(地域公民館) 4	作図演習：立面図・矩計図・面積表・仕上げ表・計画の要点→線種の使い分け・作図手順					
9	RC造2階建(美術館) 1	エスキース演習：ゾーニングの仕方・内部条件と外部条件の整理の仕方・エスキース					
10	RC造2階建(美術館) 2	作図演習：配置図兼平面図・平面図・断面図					
11	RC造2階建(地域図書館) 1	エスキース演習：ゾーニングの仕方・内部条件と外部条件の整理の仕方・エスキース					
12	RC造2階建(地域図書館) 2	作図演習：配置図兼平面図・平面図・断面図					
13	RC造2階建(複合施設) 1	エスキース演習：ゾーニングの仕方・内部条件と外部条件の整理の仕方・エスキース					
14	RC造2階建(複合施設) 2	作図演習：配置図兼平面図・平面図・断面図					
15	RC造2階建(複合施設) 3	アイソメ図演習：アイソメ図の書き方と演習					
1回配当時間	8時間	4コマ					
使用教科書	名作住宅で学ぶ建築製図、ビジュアルハンドブック 必携建築資料 改訂版						

SYLLABUS(後期)

授業科目	建築CAD実習 I	年次	1 年	前後期	通年	単位	4
授業の種類	実習	科目区分	必修	実務経験のある教員による授業科目			○
実務経験内容	建築士として個人邸を中心とした設計事務所を運営し建築業務全般に関する実務経験を有す。						
教育目標	CAD製図法を学び、各種建築図面を反復練習して作図能力を高める。						
成績評価の方法・基準	成績は100点満点とし、60点以上をもって合格点とする。科目期末試験、平常試験の成績及び出席状況を厳正に審査して、成績を評価し、その評価に基づき単位を付与する。 科目成績評価は絶対評価の4段階であり、優（A：100点～80点）、良（B：79点～70点）、可（69点～60点）、不可（D：60点未満）とする。						
回数	題 目	授 業 内 容					
1	前期の復習	Jw CADの設定、図面設定、作図の注意事項、印刷 コンピュータの基礎知識（各部名称と動作、周辺機器について）					
2	木造図面 矩計図（Ⅰ）	木造2階建住宅の矩計図を描く 矩計図の重要性、寸法押さえ、基礎・土台の記入					
3	木造図面 矩計図（Ⅱ）	木造2階建住宅の矩計図を描く 胴差し、軒げた、小屋梁、床・屋根の構造と描き方					
4	木造図面 矩計図（Ⅲ）	木造2階建住宅の矩計図を描く 各部仕上げの記入					
5	木造図面 矩計図（Ⅳ）	木造2階建住宅の矩計図を描く 仕様の記入、寸法記入、印刷					
6	階段図面の練習	階段寸法の押さえと正確な作図の練習					
7	建具詳細図（Ⅰ）	サッシ周りの詳細図を1/50レベルで描く					
8	建具詳細図（Ⅱ）	室内建具の詳細図を1/50レベルで描く					
9	曲面壁、曲線を多用した 平面・立面	曲線や斜め線を含むデザインがある平面図・立面図の作成練習					
10	RCオフィスビル 1, 2階平面図（Ⅰ）	RC2階建てオフィスビルの平面図 柱芯・壁芯の押さえ、アール形状のバルコニー					
11	RCオフィスビル 1, 2階平面図（Ⅱ）	RC2階建てオフィスビルの平面図 建具、設備の記入、繰り返し部品の活用					
12	RCオフィスビル 立面図（Ⅰ）	RC2階建てオフィスビルの平面図 高さの押さえ、平面図との整合性					
13	RCオフィスビル 立面図（Ⅱ）	RC2階建てオフィスビルの平面図 目地やセパ穴の記入					
14	RCオフィスビル 断面図	RC2階建てオフィスビルの平面図 断面図で表すもの					
15	1年のまとめ	やり残した課題を整理し、CADに対する技術的な不安を除去					
1回配当時間	4時間	2コマ					
使用教科書	建築CAD検定試験公式ガイドブック、建築CAD検定試験問題集、ドリルで学ぶJW-cad第4版、 実践ドリルで学ぶOffice活用術						

SYLLABUS(後期)

授業科目	建築測量実習		年次	1年	前後期	通年	単位	4
授業の種類	実習	科目区分	必修		実務経験のある教員による授業科目			○
実務経験内容	建築士、建築施工管理技士として建築設計事務所を運営し建築業務全般に関する実務経験を有す。							
教育目標	建築現場に必要な測量機器の操作、測量法等について習得させる。							
成績評価の方法・基準	成績は100点満点とし、60点以上をもって合格点とする。科目期末試験、平常試験の成績及び出席状況を厳正に審査して、成績を評価し、その評価に基づき単位を付与する。 科目成績評価は絶対評価の4段階であり、優（A：100点～80点）、良（B：79点～70点）、可（69点～60点）、不可（D：60点未満）とする。							
回数	題 目		授 業 内 容					
1	トランシットの取扱要領		トランシットの構造、バーニヤ・マイクロメーター・デジタル式の取り扱い 望遠鏡ピントの合わせ方、三脚の据え付け要領					
2	トランシット測量 その1		トランシットバーニアの読み方、0セットの仕方 単測法、正位、反位と右周りの読み取り方					
3	トランシット測量 その2		倍角法、方位角法、機器操作と野帳記入の仕方 方位角の測定要領、鉛直角の測定要領、鉛直角測定と応用測量要領					
4	レベル・トランシットの 検査 方法		レベル・トランシットの検査法、くい打ち検査方法					
5	水盛・遣方		建築工事における測量作業手順					
6	水盛・遣方の実習		木造建築を作るための建築測量である水盛り・遣り方の実習					
7	トランシットによる 直角測設1		トラバース法：建築現場に必要な直角をトランシット設置作業実習					
8	トランシットによる 直角測設2		他の方法を使用して、一辺20mの正方形を設定					
9	測量結果のまとめ方		各種公式、4回で実測した数値から具体的に距離・高さを計算 (座学)					
10	光波測距儀		光波測距儀の原理と使用実習					
11	トランシット測量実技試験		トランシット基本操作を全員が習得するため、テストを実施					
12	地図		地図の種類と用途、建築関連地図、案内図の書き方 (座学)					
13	測量の誤差・精度		測量の各器具、測量方法と誤差					
14	新しい測量		GPS測量 (座学)					
15	演習問題 期末テスト まとめ		建築士試験等の過去問題演習と解説 後期授業の復習とまとめ (座学)					
1回配当時間	4時間		2コマ					
使用教科書	First Stageシリーズ 測量入門、ビジュアルハンドブック 必携建築資料 改訂版							

SYLLABUS(後期)

授業科目	建築材料実験		年次	1年	前後期	通年	単位	3
授業の種類	実験	科目区分	必修		実務経験のある教員による授業科目			○
実務経験内容	建築士、建築施工管理技士として建築設計事務所を運営し建築業務全般に関する実務経験を有す。							
教育目標	建築材料の物理的特性を実地検証し、適材を適所に使用方法を習得させる。							
成績評価の方法・基準	成績は100点満点とし、60点以上をもって合格点とする。科日期末試験、平常試験の成績及び出席状況を厳正に審査して、成績を評価し、その評価に基づき単位を付与する。 科目成績評価は絶対評価の4段階であり、優（A：100点～80点）、良（B：79点～70点）、可（69点～60点）、不可（D：60点未満）とする。							
回数	題 目	授 業 内 容						
1	木材の圧縮試験その1 (縦圧縮)	建築用木材の種類と特徴、木材の含水率・比重測定、平均年輪測定、強度測定						
2	木材の圧縮試験その2 (縦圧縮)	建築用木材の種類と特徴、木材の含水率・比重測定、平均年輪測定、強度測定						
3	木材の圧縮試験その3 (縦圧縮)	建築用木材の種類と特徴、木材の含水率・比重測定、平均年輪測定、強度測定						
4	木材の圧縮試験その4 (横圧縮)	板目・木目・柾目、樹種(杉・檜・米松・SPF等)による強度差測定、部分圧縮試験						
5	木材の圧縮試験その5 (横圧縮)	板目・木目・柾目、樹種(杉・檜・米松・SPF等)による強度差測定、部分圧縮試験						
6	木材の圧縮試験その6 (横圧縮)	板目・木目・柾目、樹種(杉・檜・米松・SPF等)による強度差測定、部分圧縮試験						
7	木材・鋼材の曲げ試験	集中荷重と断面係数、曲げ強度試験						
8	コンクリートの曲げ試験	補強コンクリートブロックの強度測定、鉄筋コンクリート梁の曲げ破壊試験						
9	鋼材の引張試験その1	鋼材の引張の目的と応力ひずみ試験 直径9mm～直径13mm、D10mm～D16mm、D19mm～D25mm 引張強度試験						
10	鋼材の引張試験その2	鋼材の引張の目的と応力ひずみ試験 直径9mm～直径13mm、D10mm～D16mm、D19mm～D25mm 引張強度試験						
11	鋼材の引張試験その3	鋼材の引張の目的と応力ひずみ試験 直径9mm～直径13mm、D10mm～D16mm、D19mm～D25mm 引張強度試験						
12	木材の接合実験部材の製作	建築に使用する金物、接合材強度測定用部材の製作						
13	木材の接合実験部材の耐力実験	前回(9)で作成した部材のせん断耐力(破壊)試験						
14	材料実験まとめ	後期実験レポートの整理、材料実験まとめ						
15	後期期末テスト	材料実験理解度の確認、解答解説						
1回配当時間		2時間	1コマ					
使用教科書		ビジュアルハンドブック 必携建築資料 改訂版、新版 建築実習1						

SYLLABUS(後期)

授業科目	建築透視図		年次	1年	前後期	後期	単位	2
授業の種類	実習	科目区分	必修		実務経験のある教員による授業科目			○
実務経験内容	建築士として企画・設計及び監理また店舗・オフィス等のインテリアデザイン・設計及び監理に関する実務経験を有す。							
教育目標	建築図面から図学的技法により、建築物の完成予想図を描く方法について習得させる。							
成績評価の方法・基準	成績は100点満点とし、60点以上をもって合格点とする。科日期末試験、平常試験の成績及び出席状況を厳正に審査して、成績を評価し、その評価に基づき単位を付与する。 科目成績評価は絶対評価の4段階であり、優（A：100点～80点）、良（B：79点～70点）、可（69点～60点）、不可（D：60点未満）とする。							
回数	題 目	授 業 内 容						
1	立体図法の解説 平行透視図法(一点透視) (1)	各種図法の解説、フリーハンドスケッチ 練習問題 (1) ビル外観パースのトレース						
2	平行透視図法(一点透視) (2)	練習問題 (1) ビル外観パースのトレース						
3	平行透視図法(一点透視) (3)	練習問題 (2) 住宅外観パースのトレース						
4	平行透視図法(一点透視) (4)	練習問題 (2) 住宅外観パースのトレース						
5	平行透視図法(一点透視) (5)	簡単な建築物の平行透視図 - 俯瞰図(下描き)						
6	平行透視図法(一点透視) (6)	簡単な建築物の平行透視図 - 俯瞰図(仕上げ)						
7	有角透視図法(二点透視) (1)	練習問題 (3) 住宅内観パース						
8	有角透視図法(二点透視) (2)	簡単な建築物の有角透視図 - 住宅内観パース(下描き)						
9	有角透視図法(二点透視) (3)	簡単な建築物の有角透視図 - 住宅内観パース(仕上げ)						
10	実習(外観パース)(1)	外観パース実習(RC3階事務所ビル)						
11	実習(外観パース)(1)	外観パース実習(RC3階事務所ビル)						
12	実習(外観パース)(1)	外観パース実習(RC3階事務所ビル)						
13	実習(外観パース)(1)	外観パース実習(RC3階事務所ビル)						
14	実習(外観パース)(1)	外観パース実習(RC3階事務所ビル)						
15	実習(外観パース)(1)	外観パース実習(RC3階事務所ビル)						
1回配当時間	4時間	2コマ						
使用教科書	パーステック、ビジュアルハンドブック 必携建築資料 改訂版							